

理
窓

理窓教育会報

第33号

平成21年3月7日

東京理科大学理窓教育会

事務局 東京理科大学理窓会館4階

巻頭言 『人と親しく交わる習慣を』

東京理科大学理窓教育会 会長 (33K)酒井 洋

朝学校で、挨拶ができない生徒が多いと聞きます。また、誰でもよいから殺したかったという大変不幸な事件がありました。

その底辺には人に心を許せない、小さい時から親しくいろいろな人と交わる習慣を持たないまま育ってきた結果だと云われます。

日本の四年制大学で、卒業時に就職の意志を示さない学生は約30%、就職したけど、1年以内に辞める者は約25%~30%います。その原因はほとんど人間関係ができなかったことによります。人は人間関係の中で人間になるのです。

精神科医のハリー・スタック・サリバンは、「人間はこの世に生まれてきたら誰でも、存在する意味、生きる価値を知ろうとする。」それは、「人間関係の中にしか、見出すことはできない」と言っています。優れた人間関係は、誰との関係にあっても必ず、与えているものと、相手から与えられているもの、その価値を双方が認識し合っていると云います。

心理学者のアンリー・ワロンは、「人間はどのようにして私になっていくのかを突きとめれば、必ず他者との交わりによって私になっていく」「他者がなければ自己はない」と言っています。

人間は、生後5、6ヶ月くらいから喜びを分かち合うことができると言われています。この時期から人間的な情緒の発達が始まります。子どもと一緒に喜ぶところから人間的コミュニケーションが発達します。

人間的コミュニケーションができない人は、愛

情に恵まれず、粗末に育てられ、相手の悲しみを感じる力がないのです。

乳幼児精神医学の専門家ロバート・エムデイは、十代になって、非行や犯罪を犯してしまう少年少女たちにどんな共通点があるかを、詳細な研究で明らかにしました。

人間が最も感受性豊かに育てられるのは生後6ヶ月から一歳半。この時期に、将来非行や犯罪など大きく左右する人格が育てられるのです。同時期に、子どもは自分の意志で動けるようになりますが、不安な状態にあります。親が自分を見守る視線があったかどうか、このことが決定的な意味を持つと、ロバート・エムデイは確認しました。

子どもの命を大切に育てることは、自分が大切に見守られていることを周りが示すことで、その子が大きくなった時に、他者を大切にしながら生きることができるのです。犯罪はそのところの欠落です。

古今東西を問わず、人間形成の基盤は家庭教育にあります。かつて、日本の家族構成は二世帯、三世帯が普通でした。物を大切に、命を大切に、長幼の序がごく自然に家庭の中で行われていました。また、子どもも多く、家庭内で子ども社会が築かれ、長兄、長女が親代りを、他の子どもが家事を分担していました。

現在では、この家庭教育の分野まで、学校教育で補う必要性が発生しています。

(東京女子学院中学高等学校長)

支 部 報 告

岩手支部総会報告

支部長 (42S)石川 明彦

本年度の理窓教育会岩手支部総会は平成20年11月8日(土)10時、ホテルエース盛岡(盛岡市中央通 2-11-35)で開催致しました。通常の議事の中で、事務局長に江本理恵氏の就任(理窓会支部事務局長の交代による手続き)が報告承認されました。議事のあとの情報交換会では、下記の3件について発表を頂きました。

①「和算の歴史～関孝和 没後300年～」

岩手和算研究会事務局長 菅原 通

現在の数学から見た和算の内容やレベル、和算の伝承制度、そして、岩手の和算家の業績等の解説。

②「再編にゆれる小規模校」

大迫高校 校長 千葉 仁

激しい少子化と市町村合併の中、小規模校の生き残りを賭けた教育、特に地域に根ざした生徒会活動や部活動の工夫の解説。

③「通信教育の現状」

杜陵高校宮古分室 副校長 佐藤 尚

お話は通信制教育体制の解説と現状の教育活動、そして生徒の知事賞受賞等教育活動の成果の解説。 以上

宮城支部総会報告

支部長 (18S)平塚 正好

昭和20年度総会は7月12日正午より仙台市青葉区ホテル白萩において開催、来賓として理窓会宮城支部長佐々木勇三郎氏(34B)1名、会員6名(現職2名、OB4名)計7名出席して行われた。議題は事業報告、会計報告、役員改選、今後の活動等であった。事業報告は支部長より行われ、本部への報告、管理職調べ報告、本部からの要請事項として本部会費納入促進、125周年記念事業募金の要請等であった。会計報告は会計高橋康之(41K)繰越金27,

536円と報告された。監査報告は狩野克範(35S)より公正妥当であると報告された。役員改選は留任と決定、今後の活動は総会への出席率の高揚が第一とされたが、本県では難しい問題である。今回の総会案内も60通出し40人が返事なしであります。単独総会は四度目ですが、いつも10名以下です。今回は平成22年度開催ですが、10名を越したいものです。

現在管理職は8名いるので、管理職を中心にした総会準備会を開き、総会を開催したと、考えています。私は地方の総会は懇親目的とし、現役はリラックスして現場で抱える当面の問題点を話し合う、OBは最近の健康問題など生活状況を語り合うことにより懇親の度が深まると思います。

私は素晴らしい会員との歓談により、新しい知識を学ぶことが多い理窓会支部総会と教育会総会には欠かさず出席しています。総会とは別に宮城県東松島市で平成20年8月29日から31日まで開催された第43回全日本大学ソフトボール選手権大会に理科大が出場したので私と狩野氏が応援に行き、久方ぶりに学生気分に戻り精一杯応援しました。結果はベスト16で監督丸山克俊先生はベスト8を目標にしていたので、もう一步のところで敗退し残念がっていました。今後のご健闘をお祈りします。

群馬支部総会報告

支部長 (46B)辻村 好一

平成20年度の理窓会群馬支部及び教育会群馬支部総会を、11月29日(土)に「ウエルシティー前橋」において、21名の参加のもとで開催しました。

総会では、田村功理窓会群馬支部長、辻村好一教育会群馬支部長の挨拶のあと、東京理科大学理事長塚本桓世様より理科大の現況や125周年記念授業についての説明を伺い、理窓会幹事長の児島紘様からは理窓会の取組をはじめ、過日実施されたホームカミングデー2008の様子を伺いました。出席者は教育関係の現職・OBの方々が多い

例年通りの状況に加えて、今年度は民間企業の方々にも出席をいただき、充実した総会となりました。また、この総会で、教育会群馬支部新支部長として、奈良正幸氏(49OS)を選出しました。

懇親会では出席者一人一人より理科大在学中から現在に至るまでの報告いただき、大学在学中の共通の思い出や卒業後の仕事に対する状況、趣味や健康、現在の企業での取組や教育現場の状況など、楽しい豊富な話題でなごやかな会となりました。

今後、群馬支部をますます発展させていくと共に、若手の会員を支援できる活力のある支部でありたいとの意見も出て、来年度はさらに参加者を増やし、充実した会にすることを願い盛会の内に終了しました。

茨城支部総会報告

支部長 (46B) 小林 康則

平成20年度の理窓教育会茨城県総会は、平成20年11月16日(日)11:00から16:00にかけて土浦市亀城プラザにおいて開催された。当日は朝から雨であったが8名の会員の参加があった。

総会の午前の部は、41Bの石井亀男前筑波大学大学院教授から「高校生の物理への挑戦と核融合」(物理チャレンジ・オリンピックの問題“振り子の共振現象”を主として)という演題でご講演をいただいた。物理オリンピックの現況および国内予選としての物理チャレンジの位置付け、物理チャレンジの作問者としての狙いや感想、さらにはそれらとライフワークである核融合研究とを結びつけた格調高い話をパワーポイントを駆使しながら丁寧に分かりやすく解説してください。

昼食をはさんで午後の部は、理窓教育会茨城支部規約の変更案の審議に続いて、過去数年にわたる茨城県内の約60の高校の入学時の模試成績とその生徒の3年後の大学合格者数の相関を国公立大・私立大ごとにまとめたグラフとそれから推測される県立高校と私立高校の志向傾向の違いなどにつ

いての発表があった。

短い時間ではあったが、楽しくかつ有意義な時間を過ごすことができたと思う。毎年参加者が少ないことをかこっているが、県内に散在する理窓教育会員に貴重な時間を割いて一堂に会してもらうためには、今後とも総会内容を魅力あるものに工夫しなければならないと思った。

埼玉支部総会報告

支部長 (55 修K) 金子 和人

埼玉支部総会は、理窓教育会会長酒井淳先生をお迎えし、参加者26名で平成20年12月6日(土)に行われました。会場は、恒例となっている大宮国体記念会館で、総会においては、埼玉支部会長挨拶、酒井会長挨拶を頂いた後、役員改選、平成20年度事業計画及び会計報告、平成21年度事業計画及び予算案等が提案され承認されました。事業計画では、参加者の増加に向けた工夫や理総会埼玉支部総会への出席等が話し合われました。総会後は、同窓生である東京理科大学理学部応用化学科の矢島博文教授より「ナノカーボンの話題と将来性：その生体高分子複合体と利用」について、講演を頂きました。カーボンナノチューブの種類とその合成法、分離法、性質分析、その利用と将来性等の多岐にわたる内容を紹介いただきました。最先端の研究分野の話題を教育現場に持ち帰ることの出来た参加者が多くいたものと確信しております。

講演会後の懇親会では、各参加者の自己紹介や近況報告、各学校の現状や理数教育の在り方等の情報交換もあり有意義な会となりました。特に円陣を組んでの理科大校歌合唱は、同窓・同志の一体感の醸成となり、参加教員相互の連帯強化となりました。時のたつのも忘れて進行した会も母校の益々の発展と次回の総会での再開を確認し、盛況のうちに閉会となりました。

最後に、本支部の課題として、会員数の確保と理数科教員としての教育力向上のための研修会・講演会の実施が挙げられます。

若手教員を支援できる活力のある支部活動であるよう、私立高校の同窓生も含め各学校で活躍している同窓生の掘り起こしを行い、魅力ある活動を創成していくことが急務と考えています。他の支部との情報交換を進め、求められる支部活動を築けることを願って支部報告とさせていただきます。

東京支部総会報告

支部長 (49 専 S) 廣瀬 和昭

平成 20 年度の理窓教育会東京支部定期総会は5月25日(日)午後0時30分より、1号館3階133教室で行われた。例年は9月下旬に開催していたが、今年度より理窓会東京支部総会が開催される同日に本会総会を開催することにした。近年、教職に就いている方は業務が多忙になり、管理職は特に会議のような時間が夜でも取りにくいのが現状である。そのため、理窓会東京支部と共催して開催することにした。

総会は竹村精治高校部会部長の司会で始まった。酒井淳理窓教育会会長が挨拶された。東京理科大学は今神楽坂校舎の新構想において難題を抱えている。神楽坂の地を起点に125年の歴史を刻み、多くの方々の知恵と努力を結集して様々な苦難を乗り越えて今日まで発展してきた。我々同窓生も学校の発展のために真剣に立ち向かっていかなければいけないと述べられた。報告及び議事に入り、運営委員会の各部会や各委員会から平成19年度活動報告があった。特に坂本功指導委員委員長より教員志望の学生の現状説明があり、また全国組織の状況などの報告があった。また、平成20年度の活動方針案の発表に引き続き、平成21・22年度役員改選に入った。すでに運営委員会において、審議している原案が承認された。會田理事より11月3日に実施予定の第3回「ホームカミングデー」には多くの会員が結集するように、呼びかけがあった。

総会終了後、理窓会東京支部総会と合流し、理科大工学部准教授大庭三枝先生の「アジア太平洋における新潮流と日本」と題す

る講演を聴いた。卒業生による「トロンボーン四重奏」演奏、懇親会と楽しいひとときを送ることができた。

千葉支部総会報告

支部長 (36B) 増田 重衛

理窓会千葉支部の総会は、例年より多少時期を早め8月9日(日)千葉市ポートプラザちばで行い61名が出席した。はじめに【教職員部会総会】を実施し、その後全体の【千葉支部総会】という形式で行い、来賓の塚本桓世理事長、児島幹事長、森野義男維持会会長、関根功東京支部長、鈴木幹久神奈川副支部長、松井辰男埼玉副支部長、並木榮一常任幹事をはじめ大学側からも多数の先生方にご出席いただきました。

澤常務理事から、大学の状況をはじめ神楽坂の再構築の見直し等のお話、森野維持会会長から「維持会・創立125周年記念募金について」の状況と21年12月まで期間を延長するとのお話を頂きました。また、児島幹事長からは理窓会の重点活動方針と進捗状況、組織化の推進、ホームページのリニューアルなど理窓会の取り組み、第3回ホームカミングデーの紹介等の分かりやすいお話でした。議案については全て承認されました。

【記念講演会】講師は、日本理化学協会会長・都立富士森高等学校長の富岡康夫先生(48K)にお願いしました。「私と理科教育～私の歩んできた道」という演題で、理科教育に携わる経緯をエピソードを交えてのご講演(約90分)でした。その他、教科書検定や新教育課程編成についての提言の仕事など、幅広い経験を生かした非常に興味深い内容でした。

【懇親会】総会に参加していただいた方々はほとんど出席という状況で、終始和やかな雰囲気では進みました。最後は校歌で締め括り、非常に親睦が深まった有意義な時間となりました。この会がさらなる進化を遂げ、来年度も多数の出席者による充実した総会が実施できますよう、事務局も活

動していきたいと考えております。

神奈川支部総会報告

支部長 (41B) 鈴木 宏司

本県における理窓教育会神奈川支部総会は、長い間理窓会神奈川支部定期総会と兼ねて行う形になっている。この支部定期総会は神奈川県を6つの地区（それぞれの地区に幹事長と幹事がいる）に分け、地区が輪番で総会を担当するという独特な方法で行っている。本年度は県西地区がその任に当たり、平成20年7月12日（土）JR平塚駅前の「平塚プレジール」にて開催した。出席者は来賓の方を含めて60名であった。

総会は塚本東京理科大学理事長、児島理窓会幹事長のご挨拶があった後、議事に入り19年度事業報告、収支決算報告そして20年度事業計画案、収支予算案が滞りなく承認された。そして、講師に小山稔氏(34K, 坊ちゃん賞受賞)をお迎えし、演題が「第Ⅲ世代の光：発光ダイオード(LED)」一省エネへの貢献をめざして一という誰もが関心を持つものを取り上げていただき大変充実した意義ある講演会となった。

この後、懇親会に入り、上記2名の方のほか並木常任幹事、森野維持会会長、関根東京支部長、青木埼玉支部長、水野千葉支部長代理の方々と共に、和気あいあいとした雰囲気の中、楽しいひと時を過ごした。

以上であるがいつもこの報告に併せて記述している本学出身の神奈川県立高校の管理職の集まりである「神楽会」について触れておきたい。これは”会員相互の親睦と教養の向上に寄与する”ことを目的に10年ほど前に発足したもので、OBを含めて今年度の会員数は46名であった。会は年2回、「海の日」と「成人の日」に実施し、毎回主として教育に関する演題で講演会を行うのが大きな特徴となっている。講師は大変バラエティーに富み、教育研究所員、大学の先生、企業の方、高校現場で活躍された、或いは現在されている校長先生等の方々である。会員は毎回おおいに啓発されると同

時に学校経営に取り組んでいく新たな勇気が得られ元気が出るようである。平成21年1月12日の時には塚本理事長に初めて出席していただいたところで今後ますます充実・発展していくものと期待しているのである。

山梨支部総会報告

事務局 (53B) 橘田 多喜夫

山梨県支部総会は、毎年理窓会山梨県支部総会と合同で開催している。本年度は平成20年9月27日(土)16時から甲府市「ニュー芙蓉」で、13人の参加のもとで開催された。

来賓として、東京理科大学から澤芳昭常務理事、理窓会本部から齊藤隆夫常任幹事、東京理科大学維持会から森野義男会長、地理的に近い諏訪東京理科大学から西山勝廣システム工学部長の4人をお迎えした。

澤芳昭常務理事からは、大学の最近の状況をお聞きした。多くの受験生を集めていることや大学の再構築事業のこと、本年度も国家公務員採用I種試験で大勢の合格者を出していること等、学生の活躍と大学の発展の様子を知ることができ、母校の発展をうれしく思った。

齊藤隆夫常任幹事からは、理窓会19年度重点活動方針とその進捗状況及び20年度重点活動方針のお話があった。森野会長からは、維持会の説明と創立125周年記念事業募金の状況についてお話があった。西山勝廣先生からは、諏訪東京理科大学について入試状況等のお話があり、少子化にもかかわらず、多くの高校生が希望しているとの報告があった。就職率が100%であることや地元の精密機械の企業から期待されていることも伺った。また卒業生が多くの大学院へ進学しているとのことである。武藤廣支部長からは、支部長会議の報告や「発祥の地」記念碑建立のことなど、この1年間の理窓会活動や、父母会「こうよう会山梨県支部」総会等について報告があった。

懇親会では、参加者の近況報告をはじめ、

現役教員からは県内高校教育の様子を聞き、充実した時間を過ごした。今後、理窓会・教育会両支部の課題である若手の参加を図るため、県内で活躍の同窓教員の講演等を企画して、若い先生方の支部総会への参加を呼びかけたいと考えている。

静岡支部総会報告

支部長 (43K)恩田 征弥

当支部は、現会員数 37 名（小中学校関係 15 名、高校関係 22 名）で活動している。総会は新年会を兼ね、1月 24 日（土）に 16 名の参加を得て、三島市にて開催された。年一度の出会いであるが、初参加の 3 名の会員もあり、同窓の絆を強く結ぶひとときとなった。当日の議事等を報告する。

遠藤宏初代支部長による本会の発足から足跡についての説明、資料配布。藤原有恒理窓会本部幹事による「理大及び理窓会の現状と展望」についての講話、資料配布。会員からの報告、情報交換

- ・初参加の会員の紹介
- ・今年度、学校の統廃合・再編成の新設 2 校についての発足からの歩み、取組み（単位制高校、科学技術高校）
- ・地域における小中高の教育活動、進路相談等、連携の具体的実践例
- ・今年度、転勤した学校における特色ある実践例
- ・定年後の地域貢献の実践例
- ・県理窓会の組織及び活動の現状
- ・理科大の校舎建築及び移転計画について、マスコミやHPから流れている情報の真偽、さらに今後の展望への懸念・校舎内外の変遷、神楽坂界隈の今昔の思い出を辿り、理科大の伝統である「独立独歩」の精神を骨格にしなが、理科大諸先生方・先輩・後輩との絆を紡ぐエピソード etc.

今後とも、新会員の発掘に努め、先ずは 40 名の目標を掲げて、会を維持・発展させていきたい。

富山支部総会報告

支部長 (46OS)小川 悦朗

米国に端を発した経済・金融問題は日本を含む現下の世界を凍てつかせています。

私たち日本人でも各階各層で、その予兆をいつの時点で感じたか、大きく異なるところで興味深いところです。こんな時流にあって、私たちは職場や同窓といった人との係わりとも言うべき連帯感の大切さを、殊の外、ひしひしと感じさせられるところです。さて、本県の支部総会は、来賓として大学より、常務理事澤芳昭先生と理窓会常任理事池北雅彦先生のご来県を頂き、6月28日、JR富山駅より程近い高志会館を会場に行われました。本多宗高理窓会支部長の開会の挨拶に続き、来賓より、本学の発展・活躍の状況を伺いました。分けても、急激な少子化が進み受験生そのものが減少する中であって、私どもの大学受験者数が5万人を超えたとの報告には、安堵と共に本学の社会的評価の一端が伺え、会員一同うれしく思いました。引き続き、前年度の会務報告等を行った後、平成6年に東京理科大学理学部物理学科を卒業され、現在、富山大学院理工学研究部准教授をされている青木一真氏による講演を持ちました。「地球温暖化最前線—微粒子を追い求めて」を演題として、中国大陸から偏西風に乗って日本に渡ってくる黄砂、その黄砂に付着してくるカビや細菌などの微粒子が、地球の気候に与える影響についての研究の一端を紹介していただきました。地球温暖化は、二酸化炭素の排出問題としか捉えていなかった者にとって、自らの不明を恥じるばかりでした。改めて、氏の研究成果とひたむきさに敬意を表するのみでした。私どもにとって、どの分野であれ、研究の最前線について、直接うかがい知る機会はほとんどありませんが、この支部総会を通してそれを垣間見ることができ、極めて有意義な一時でした。その後、懇親の場に移り、お互いの健康と活躍を誓って散会いたしました。

京都支部総会報告

支部長 (40S) 田中 理房

今年の支部報告は、どのような内容で皆さんにお知らせすれば良いのか、考えてしまいます。支部総会なる定めに従った会合を定期的に開催できず、本年も経過しています。現在、京都府下で東京理科大学卒業の教員は、最も若い方でも、30代半ばを越えた方で、その人数も年々減少しているのが実態です。そこで今年度の支部報告は、現在中堅教員として、府内で活躍されている、竺沙敏彦(平成3年理・応数卒)教諭に、ご自身の近況報告を願うこととしました。竺沙教諭は、東京理科大学卒業後、地元京都にて中学校教諭に採用、平成17年4月から京都府立洛北高等学校附属中学校で勤務し、若手教員のリーダーとして、新しい試みの学校での教育実践に挑戦しています。

「本校は、明治3年開校の日本最古の中学校である京都府中学校(後の府立一中)の流れをくむ学校であり、卒業生にはノーベル物理学賞を受賞された湯川秀樹先生、朝永振一郎先生をはじめ、各界にてご活躍されている方が多数おられます。そして、附属中学校は平成16年4月に京都府内で最初の中高一貫校(併設型)として開校し、私は開校2年目に着任し4年が経過しました。

本校は、京都府内全域が通学区域であり、一般の公立中学校よりは学力の高い生徒の比率が高く、中学3年生の半数以上が英検準2級の資格をもっています。数学においても学力の高い生徒が多く、1年生から高校内容を一部取り入れた授業を行い、中学校学習指導要領の学習内容は中学2年生までで全てを修了し、3年生からは高校の学習内容を扱っています。特筆すべきことでは、日本ジュニア数学オリンピックにおいて、成績優秀者(aaランク)に18年度から2年続いて3名ずつ輩出しております。

生徒の学習意欲や知識欲は大変旺盛であり、おのずと日々の授業で取り扱う内容や

題材などは高度な内容になります。併せて、家庭学習もしっかり取り組み豊富な学習内容をしっかりと身につけられる生徒も比較的多くいます。したがって、指導者は教材研究に対して、創意工夫を十分に行い、内容を吟味する必要があります。しかし、他の公立中学校と同様中学生である以上、まずは基本的な生活習慣の育成を大切に、道徳教育等心の教育を重視することができてこそ、新しいニーズとしての公立中高一貫校に対する期待に応えるものと、改めて心に誓い、成長してゆく生徒たちとともに日々努力しています。」

(「 」内は文責竺沙敏彦氏)

鳥取支部総会報告

支部長 (45S) 高橋 譲

鳥取支部は年一回総会を開催し、その他には、必要に応じて個々に連絡をとって状況を確認しております。

総会は、現職高校教員5名、元高校教員2名の7名で12月20日に開催。なごやかな中に情報交換をしながら酌み交わしました。特に、将来の高校教育を担う若手の教員の育成について、いろいろと意見を交わしました。鳥取県は、人口の極小県ですので、しかもさまざまな考えがあって、参加意識が高いとはいえ、会の活性化について苦慮するところです。根気強く、将来の明るい展望を願いながら活動を継続して参りたいと思っております。

広島支部総会報告

支部長 (47S) 河野 正憲

教育会支部総会は、平成20年9月15日(日)にホテルセンチュリー21で理窓会支部総会に先立って会員10名が出席して開催しました。議事内容は次のとおりです。

- ①平成19年度の行事報告および決算報告
- ②平成20年度の行事予定および予算案

理窓会支部総会では、本部から塚本桓世理事長、森野義男維持会会長、森田昌宏理窓会幹事、また、山口東京理科大学から酒

井吉雄教授、亀田真澄准教授にお越しいただきました。

塚本理事長より、最近の東京理科大学における教育・研究等の説明をしていただき、母校の素晴らしい発展に卒業生として誇りを感じました。

引き続き、前眞一郎河内高等学校長より、「広島県高校教育の現状と課題」の演題で講話があり、国の動き、広島県教育委員会の諸施策及び成果と課題等を研修しました。確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成をめざして教育の充実の必要性を強く感じました。今後とも東京理科大学で学んだ私たち同窓生はお互いに縁を大切に、教育会及び理窓会支部会員の和を広げて行きたいと思えます。

宮崎支部総会報告

支部長 (450B)大峯 凱男

平成20年度の宮崎支部総会は、平成20年10月5日(日)、昨年に続き「ひまわり荘」(宮崎市)で開催されました(11:40~15:00)。

本部からは、理事の村田雄司氏、幹事長の児島紘氏、維持会会長の森野義男氏、山口東京理科大学からは、学長事務代理の竹永満氏、計4名の皆様が多用の中激励に駆けつけてくださいました。本県からは、今年度初めての参加の呼び掛けに快く応じていただいた「こうよう会」宮崎支部の役員4人を含め14人が出席しました。

支部長の挨拶の後、本部からは、理窓会の入会式、神楽坂キャンパスでのホームカミングデー、理科大学の入試制度と受験者数の推移、金町キャンパス構想、125周年記念事業の現況報告とその募金依頼について、また、山口東京理科大学からは、山口東京理科大学工学部の学科改編について、各4氏が限られた時間の中でパワーポイントによる素晴らしいプレゼンテーションをしていただきました。

懇親会の中では、それぞれが歩んできた当時の理科大学を振り返り、思い出を語り

合い懐かしみました。自己紹介の中でも当時の理科大学の状況が発表され、充実した支部総会となりました。

ところで、宮崎支部は、前任の支部長をはじめ歴代の支部長の方々が精力的に支部発展のためにご尽力され、今の宮崎支部を築いてこられました。昭和40年代の支部総会には毎年30人程度の参加があり、年1回の支部総会を楽しみに集まりました。時は流れ、40年後の現在、支部総会への参加数は半分近くを推移しています。県内在住の理科大学関係者は、相当数に増えているという現状を考えて、支部総会の充実と参加者増を図ることを計画して、自主的な会員による発表を今年度初めて実施しました。また、ホームページ開設についても検討を進めているところです。

入学前学習支援事業への協力

入試センター入試課 (44S) 澁谷重雄

この事業は理窓教育会の協力を得て、3年目となります。昨年と同じく入学前学習支援事業の科目は、数学、物理、化学、生物、国語、英語であり、このうち理窓教育会では、数学、物理、化学のハイレベルコースの添削指導をしています。入試センター入試課がその業務を行い、やっと実績が現れ始めたところです。

昨年度添削いただいた先生方へのアンケートから、母校に入学する学生の学力向上を願う熱い思いが感じられます。そうしたご意見を参考にしながら改善を図り、事業を推進していきたいと思えます。

なお、1月30日に今年度の入学前学習支援添削者打合わせ会が開催され、理窓教育会から18名の先生方が参加されました。委員長挨拶、添削に関する連絡事項、科目別添削打合わせ、そして実際の添削作業が行われました。

同窓の活躍

私学に求められるもの

明星中学高等学校 校長 北原都美子(47 専 S)

我が国の経済状態は、昭和40年代中頃は持続的な高度経済成長期でした。経済成長により所得水準が上昇し、国民生活は経済的に豊かになり、欧米先進国並みになりました。また、国際経済社会における地位も上昇し、貿易・企業活動や文化・生活なども国際化が進みました。しかし、バブル経済の崩壊を契機に日本の社会は「成長期」から「成熟期」へ急変しました。それまでは経済成長の大きなエネルギーの流れに社会や会社が乗っており、そこに依存していれば将来も安定だと考えていたのではないかと思います。昨今、突然の世界不況が襲い、日本の中でも世紀の金融・経済不安に見舞われています。企業の倒産、リストラなどが起こり、明日は我が身という不安を抱えるように経済が悪化してきております。このような社会情勢が私学経営にも緊迫感を与えています。子供の少子化や急激な経済状況の悪化、さらに「学校群制度」や学校の荒れなどで私立優位でしたが、「進学指導重点校」、「学区制廃止」などによる私立化・中高一貫校の設立などで公立復権の動きがあり、私立学校では現在逆風が吹いております。

しかし、今年は中学入試の志願者は減少していないという報道がテレビや新聞でありました。これは保護者が子供に対し、たとえ教育費が家計を圧迫しても、将来より豊かな生活をして欲しいという保護者の願いの表れであると思います。このことを私学に勤務する教職員一人ひとりが自覚し、心して教育現場にあたるのが大切です。

会社に依存していれば将来は安定した生活が送れるだろうというような時代は終わりました。今後は、「自立」が求められる時代だと思います。

では、私学に勤務する私たちはこのよう

な社会を生きる子供たちのために何をすべきなのかを真剣に考える必要があります。私学にはそれぞれの学校の設立の目標、建学の精神があり、教育の内容にも独自性があります。この建学の精神などは私学として、どのような時代が来ようとも変わるものではありませんが、建学の精神を生かしながら、不易流行といわれるように時代に即した教育活動を考えていかなければなりません。

これからの子供たちに、「自立」を考えたとき、どのような心構えが必要であるのか、数ある大切なことの中からいくつか抽出してみました。

1. コミュニケーション能力を高める・・・相手の気持ち・話を真剣に聞き、相手を理解し、自分の考えをもはっきり伝えることです。
2. 国際感覚を身に着けること・・・日本人は、古来、同一の言語・文化を持つ社会を形成し、他と異なることをはばかる傾向にありました。これからは、このような傾向を乗り越えて、違いがあってもそれについて話し合い、表面を繕うのではなく、深い部分で交流し、他国の異文化を理解しようとする態度が必要です。
3. 情報の選別能力を養うこと・・・現代社会は情報が溢れ、有害なものもあります。情報にコントロールされるのではなく、善悪の判断をし、使用する能力を養うことが大切です。
4. 何事にも挑戦し、努力すること・・・社会変化の多い中で、何事にも立ち向かう姿勢が大事です。努力することは苦痛も伴いますが、必ず実を結び、自分の生き方などが見えてくるはずです。
5. 自律的に行動できること・・・責任を他の人に転嫁するのではなく、自分で考

え行動し規律ある行動をすることです。

社会がこのような状態ですので、最近の私学の広報には「心」という言葉が多く出てきているとのことです。私学であれば人間教育、心のありようは必ずしており、あえて強調する必要はないのではないかと感じます。「ゆとりと新しい学力」が謳われたかと思うと、また直ぐに「確かな学力と発展的学習」というように基本方向が180度転換してしまうようなことがあります。が、犠牲になるのは子供たちです。

私学は教育の根本にある万古不易な真理を貫き、それぞれの独自性を持って教育活動をしていくことが求められているのではないのでしょうか。私学教育は創立者の教育にかける情熱や熱意で子供たちの育成に関わってきたことは事実ですし、常に日本の教育界をリードしてきたと思います。ですから、私立学校は、建学の精神、教育理念に共鳴し、理解をしてくださる方を一人でも多く増やし、入学生の確保に努力することが大切であると考えます。

事務局より

総務理事(41S) 坂本 功

1. 支部(支部長)との連絡窓口

入試センター 澁谷 重雄

在室(火、土) 10:00~16:00

TEL 03-5228-8092 FAX 03-5228-8093

メール shibuya_shigeo@admin.tus.ac.jp

2. 一般の連絡窓口

教職課程指導室 坂本 功(総務理事)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール isoskmt@rs.kagu.tus.ac.jp

平成21年度 教員採用試験合格者数

平成21年2月20日現在

校種	公立						私立					公私合計
	小学	中学校・高等学校			特別支援	合計	中学・高等学校				合計	
		数学	理科	他			数学	物理	化学	生物		
山形			1			1						1
福島							1					1
茨城		1				1	1					2
埼玉		5				5	2		1			3
千葉		6	3			9	2	1				3
東京		29	16	1	3	49	12	2				14
神奈川		1				1	4					4
横浜		1				1						1
川崎		1				1						1
山梨		1				1						1
新潟		1				1	1					2
岐阜		2				2						2
愛知			1			1		1				2
合計		48	21	1	3	73	23	4	1	0	28	101

20年度	4	49	15		3	71	14	2	2		18	89
19年度		28	6			34	24	4	4	3	35	69
18年度		34	7	1		42	16	2	2		20	62

昨年度までのデータは最終値、今年度のものは現時点値である。